

令和5年度 接続期カリキュラム研究推進地区(3年目) 活動報告



本郷台地区

♥本郷台小学校 ♥新大船幼稚園

《テーマ》

「いきいき」「わくわく」「やってみたい」を引き出す
主体的な遊びと学び

～子どもの姿を通して架け橋期のカリキュラムを考える～

令和5年度 実践の柱

①園と小学校の職員による双方の子どもも理解・共通にもつ視点の確認

入学前の園での研修 ドキュメンテーションや写真を活用した研修 校内・園内研修
スタカリ公開研（昨年度は公開保育） 校内授業研・保育の参観と協議会での学び合い（園⇄小）
教員の異校種交流（園⇄小） 推進会議

②スタートカリキュラム公開授業研の実施 （4月20日本郷台小にて）

③一人ひとりの「やりたい」がかなえられる保育と授業の実践

重点研究の推進（総合的な学習の時間・生活科）、各教科の取り組みの充実
年中、年少での保育の見つめ直し・年長につなぐ保育

④実践事例集（横浜市発行）への参加（3年間の研究のまとめとして）

⑤足跡カリキュラム・ドキュメンテーション・接続期カリキュラム作成

持続可能な接続期カリとなる取組として

⑦様々なところでの発信

区園長会 区校長会 区専任会 校長会幼保小中連携研究部 近隣小学校研修会
区教育交流事業 園長・校長会 等

架け橋期のカリキュラムを共通にとらえる視点

テーマの「わくわく」はどこから生まれてくるかを考えてみました

一人ひとりの“やりたい”がかなえられる保育と授業づくり

そのために、大事にしたい「観」を共有し、実践を行っていきました。

園と学校で「観」を共有する

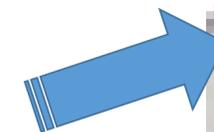
子ども観
授業観
保育観
教育観

- 子どものこれまでの経験を生かし、子どもに任せた保育や授業
- 子どもの「やってみたい」を引き出す環境づくりや子どもとのかかわり方
- 子どもの「やりたい！」をかなえ、調整する大人の役割 など

子どもの「やりたい！」がかなえられる幼稚園での遊びと小学校での学習。それがつながることによって、学び手である子どもが、安心して自己発揮し、主体的に、探究的に、協同的に、学びを広げたり深めたりしながら、学びを面白がる＝自ら学びに向かう態度を形成していくと考えます。そのためには、保育者や教師が、子どもの声を聞くこと、その声を受け止め、保育や授業に生かしていくことが大切であると考えます。また、幼児期に安心して様々な人・モノと対話ができる環境を保障し、存分に探究できることは、小学校以降の学習の中でも自分なりに疑問や問題提起ができ、「考える力の根っこ」になると考えます。園での遊びと小学校での学習が、どちらも自分たちの思いを実現できる場であること、実現するために自ら考え、関わり、手ごたえを感じながら取り組んでいけること、そうした学び方が幼児教育と小学校教育でつながっていく環境をつくるのが、将来にわたって生きる力を育む大切な営みになっていくと考えます。

2年間の実践をもとに考察した視点を5年度（3年目）の実践へつなぐ

①園と小学校の職員による双方の子どもも理解研修



ドキュメンテーションや写真を活用



園の先生

最近までカプセルトイ作りに、はまっていました。段ボールを使い、実際にレバーを回すと…失敗しながらも仕組みを研究して何度も挑戦していました。



小学校の先生

面白いですね。夢中になる姿ってこういうことなんだと実感しました。小学校の学習活動では…

春休みなどの長期休みに小学校と連携先の園で対話をする機会を設けています。子どもの様子や園の環境を具体的に知るための時間で、ドキュメンテーション等を活用します。保育と授業を振り返り、子どもの姿から大切にしたいことを話し合っています。

校内授業研の参観と協議会での学び合い（園⇔小）

①園と小学校の職員による双方の子ども理解研修

初任者、2年目教員の 異校種交流 （園⇔小）



一人ひとりの“やりたい”
がかなえられる保育と授業
づくりや架け橋期カリキュ
ラムでつながる資質・能力
をともに考える機会に

- 育ちのつながりを体験を通して知る
- 「子どもは有能な学び手である」ことを実感
- 10の姿の具体的な理解

② スタートカリキュラム公開授業研の実施

(第1回接続期研修会) (4月20日本郷台小にて)

【テーマ】
「いきいき」「わくわく」「やってみたい」
を引き出す主体的な遊びと学び
～子どもの姿を通して架け橋期のカリキュラムを考える～

(講師)
横浜創英大学
子ども教育学部
教授 大内美智子先生



架け橋期 スタートカリ 小学校としての取組

視点1 子どもの安心・安全を目指すスタートカリキュラム

子どもの安心・安全とは・・・

- ・自分も1人の人間として大切にされている
- ・ありのままの自分を肯定的に捉える
- ・他者のために役立った、認められた

- 自己存在感
- 自己肯定感
- 自己有用感

自己発揮ができ、主体的な学びにつながっていく

園で育ってきた子どもたちの声に耳を傾け、子どもの思いに寄り添った声かけ、環境づくり、学習づくりを行うことが大切だと捉え、実践。

視点1 子どもの安心・安全を目指すスタートカリキュラム

子どもたちは面白いことに常にアンテナを張っている ①



一見バラバラに見えても、共通の話題が出るとこんな風に集まりだしました。



子どもたちは面白いことに常にアンテナを張っている ②



周りの様子をよく見て自分がやりたいことをよく考えている、そんな時間を過ごしていた子どもの姿です。

子どもたちの興味関心をしっかりと見取り、繋げていくことが大切！声かけの大切さ

「入らない」も1つの選択肢として認める。グッと待って、子どもの思いを読み取ることが大切！

視点1 子どもの安心・安全を目指すスタートカリキュラム

子どもにとっての遊びのとりえ

園とのつながりをスタカリに生かす



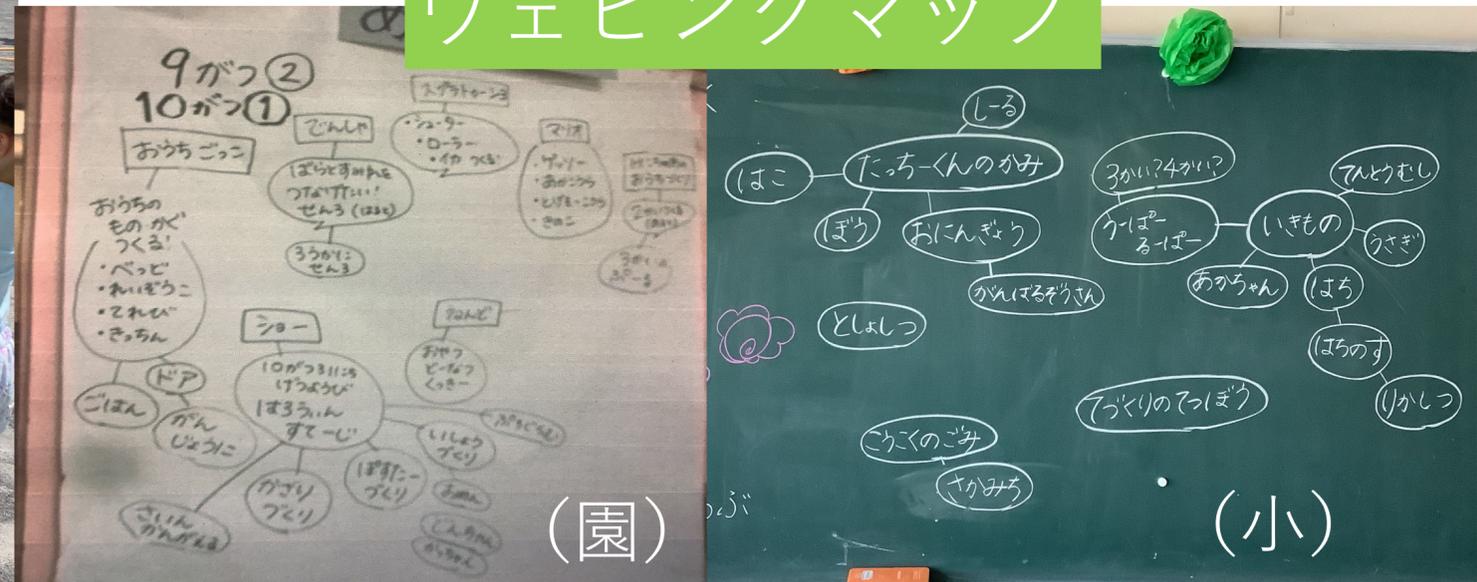
「遊びは学び」



園での活動を見る、つなげる

- ・園の先生から園での育ちや大切にしていることを引き継ぐ。(園での研修、園からの引き継ぎ、要録)

ウェビングマップ



「遊びは学び」という概念を大切に子どもを見ていくと、学びの姿が見えてくる。

遊びの姿は様々。子どもの興味・関心を引き出す環境整備や声かけを意識していく。

安心できる場と感じると、子どもは園で培ってきた創造的な遊びや協働的な姿を発揮し始める。

サークルタイム (園) ・グループゲーム (小)



学びの芽を授業につなぐ

なかよしタイムでの姿を
見とっていくと…。



おはじきで たしざんしたよ



いろいろと わけたよ



どっちが おおきいかな

なかよしタイムで数に親しむ姿が！ ⇒算数の学習へつなぐ

学びの芽を授業につなぐ

休み時間にも、さんすう遊びが
広がってきました。

みんなで たしざんして
あそんだよ

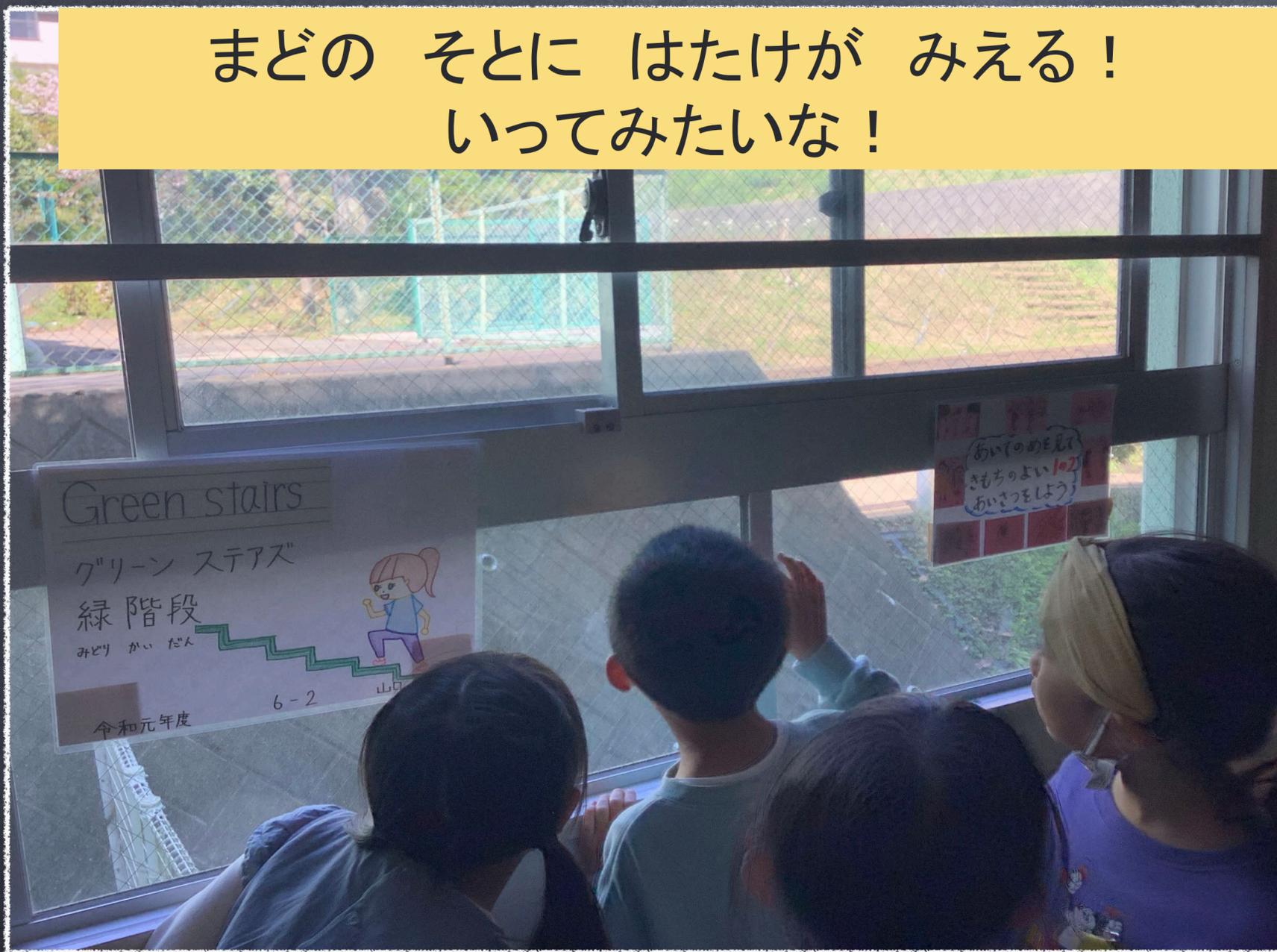


せんせいも
いっしょに
やろう！
たのしいよ！

子どもの興味や関心を授業につなぐ

この おへや、ふしぎだよ！！

まどの そとに はたけが みえる！
いってみたいな！



みんな みて～！！



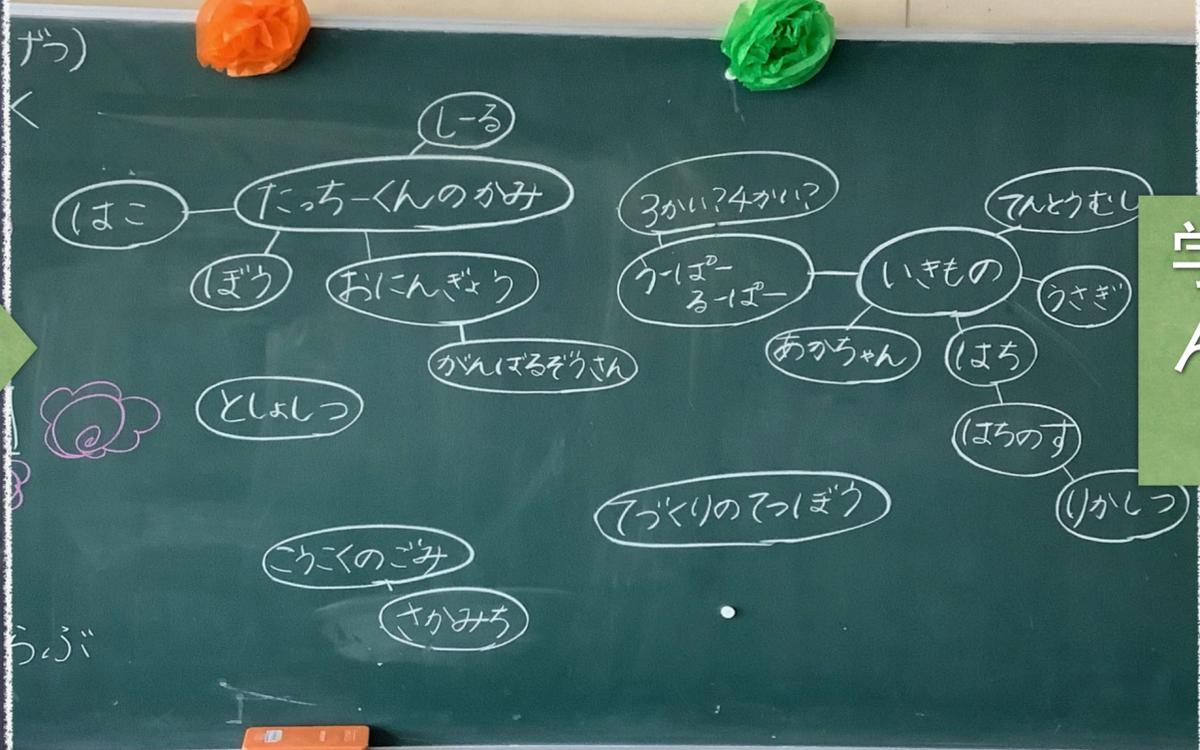
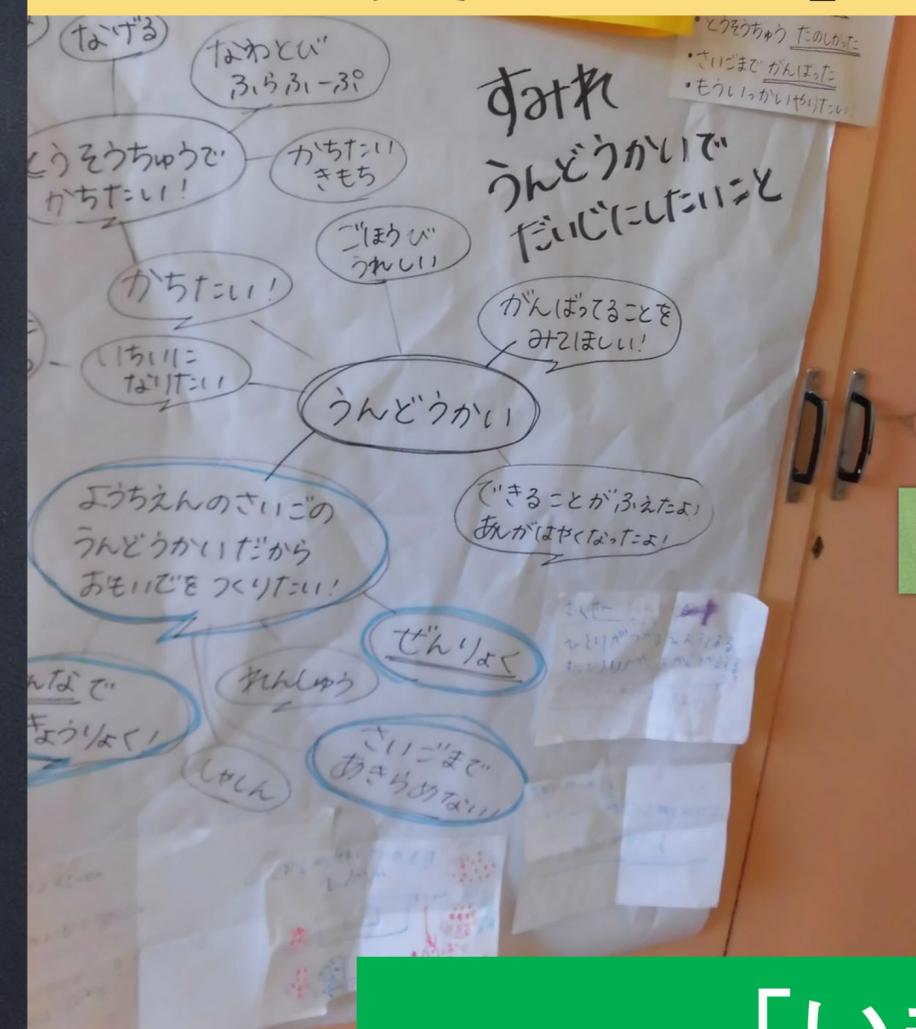
「行きたい！」を実現しようとする子ども達⇒生活科内容(1)「学校と生活」へ

園での経験を授業につなぐ・活かす

幼稚園で実際に行っていた「あそびまっぷ」

ウェビングマップを使って可視化
「みんなで いってみたいところをはなしあおう」

子ども達が自分たちで活動を見通しながら決めていく姿につながりました



「いきたい！」を実現しようとする子ども達
⇒生活科内容(1)「学校と生活」へ

子どもの思いを授業につなぐ

見つけた部屋の名前をかいて
みたい。おうちのひとに
おしえたいな。

身長がはかれるね。
ここは「ほけんしつ」っていうんだ

本がいっぱいだね。たのしそう！
「としょかん」には
ほんがいっぱいあったよ！



文字を書きたい！という子ども
の思いを実現へ。

見つけたものをおうちの人に教えたい！

「書いてみたい！」の気持ちを国語のひらがなの学習につなぐ

③一人ひとりの「やりたい」がかなえられる保育と授業の実践 ⇒④実践事例集（横浜市発行）で発信（3年間の成果）

「安心」して子どもが主体性を発揮できる保育・授業づくり

思いや願いを大切にすることで、学び手である子どもが、安心して自己発揮し、主体的で協働的で、探究的な学びそのものを面白がってほしいと考えました。それが、学びに向かう力を伸ばすことにつながってほしいと願いました。

子どもの声を聴くことを大切にした保育・授業づくり

思いや願いを大切にするために、まず園と小学校と一緒に、子どもの声を聴くことや、その声を受け止め、保育や授業に活かしていくことを意識することにしました。

つながる学習・遊びへの意欲
協働的な学び
主体性

「やりたい！」と「子どもの声を聴く」から見えたもの

「子どもの姿」を通して考えていこう。これが、研究を進める園と小学校の合言葉でした。子どもがわくわくし、探究しながら遊びや学びを創り出す姿をとらえて、「子どもってすごい！」という思いを同じにしました。「子どもは有能な学び手である」という子ども観で保育や授業を見つめていくと、そうした姿をつないでいくことこそが、架け橋期の子どもたちの豊かな学びを創るのだと実践を通して強く感じています。子どもの声を聴き、「やってみたい！」という思いがかなえられる保育や授業はその実現に向かうものです。そしてそれは、架け橋期の2年間だけでなく、その後の「学びに向かう力」の土台となっていく事を2年生以上の子どもの姿が物語っています。子どもが声を出せる、やってみたい！という思いがもてるのは、園でも学校でも、安心して自己発揮できることがベースとなります。架け橋期の学びの環境を園と学校が協働して創り出すことで、子どもの学びは豊かに広がり、将来にわたる学びに向かう力を育てていきます。

「やってみよう」をかなえる保育・授業づくりの実際

幼稚園では…

小学校では…

ピザ屋さんごっこから「本物の」ピザ作りへ

学校たんけんで見つけたこと、かきたい！



耐火煉瓦の上で設計会議



子どもが「安心して自己発揮できる」保育・授業づくり



この児童は学校探検で興味をもった「リカしつ」を文字で書きたいという思いから「ひらがなを書いてみる」という活動に向かい、文字への関心を高めていきました。他の部屋の名前をお家の人にも教えたい！と文字で伝えることへの興味が膨らみ、ひらがなの学習を意欲的に進めていった子どもたちです。

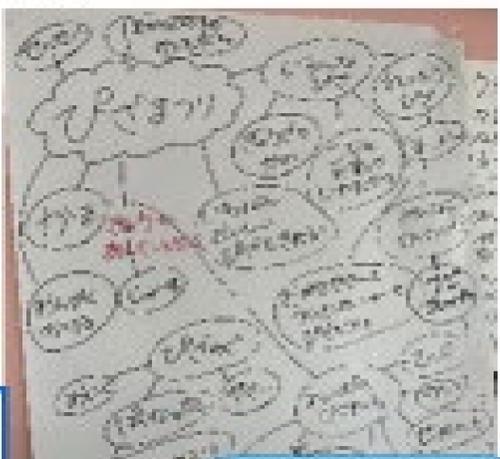
A君の「ピザ屋さんを作りたい！」という一言で始まったピザ屋さんごっこ。遊びが進むと「本物のピザを作りたい」という真剣な声があり、園としてその実現を模索しました。耐火煉瓦を購入し、子どもたちとともに、ピザ窯をつくり、本物のピザを焼きました。ごっこ遊びから本物へ。「やってみよう」を原動力に、社会とつながる学びが実現していきました。



子どもたちの「やってみよう」が広がっていくとそれは保護者にもどんどん伝わっていく。家庭で作り方や材料を調べたり、作ったりして共有する姿が見られた。



本園で行っているサークルタイム。遊びマップ（右）を用いて子どもたちの話を可視化し、対話を進めている。自分の考えが書かれることでも、子どもの「安心」につながる。



小学校教諭から

子どもたちが真剣に悩めるというのが「安心」なのだと思います。それを、家庭とつながり支えることで、保育はより豊かになっていきますね！



「保健室だけど体のことだから給食のことがあるのかな」様々な部屋との距離感が徐々に近くなり、その中で気づきが生まれ、思考が深まっていった。



幼稚園教諭から

ピザ屋の活動で、お客さんに向けたチラシ作りをしたとき、自分の書きたい文字を探すために、ロッカーに貼ってある友達の名前の文字から、「音」にあう「文字」を探す子どもがいました。小学校でも、書きたいことがあり、それをきっかけに学び、言葉や文字を獲得していくことは同じだと思いました。やりたい！という気持ちがある



7月、クラスの学校探検は終わったが、休み時間には、学校探検でお世話になった先生方のお仕事の手伝いを継続して行っていた。安心して関わる経験を積んだことで、自分から関わりを深めていく主体的な姿につながっていった。



「きてね」の「き」は、たつきくんの「き」と同じ文字だな。さっきロッカーで見つけたよ。



事例集より抜粋

「やってみたい」をかなえる保育と授業づくりの実際

幼稚園の7月

やまもも使ってなにしよう？



台風の日、園庭に落ちたヤマモモの実を集めた子どもたち。「これを使って何かを作ってみよう！」「ジャムをつくろう」「本当にジャムができるのかな？」憧れや、疑問があふれていました。

小学校の4月

探究心いっぱい！だいすきな台小農園で！



入学直後、窓越しに見えた学校の畑を見て、「行ってみたい！」「どうやって行くのかな？」という声が聞こえました。学校探検につながるかもしれないと、その声をきっかけに学習計画を立てました。

子どもの声を聴くことを大切に
した保育・授業
づくり



ジャムはできたが、衛生面から食べられず。「虫のトラップにしよう」「出た色で染めたいな」という声を大切に、新しい遊びへつなぐ。



「カブトムシもやまもも好きかな？」やまももが子どもの日常の中に。



「できた！」という自信が次の「やってみたい！」につながっていく。



小学校
教師
から

子どもの声をよく聴くことで、思いを実現していくために夢中になって探究する姿が生まれています。やまももとの関わりが日常の中にあふれていく様子がよくわかりました。



「見て！聞いて！」発見したいことを周りに伝える子どもたちの声があちこちから聞こえてきた。



「絵にしたい」「字で書きたい」表現したいという子どもたちの願いが生まれていった。



園で話し合いを可視化するために使っていたあそびマップを使用して意見を可視化した。

何も持たずに畑たんけんをしていた子どもたちは、教室に戻り、感想を交流する中で「絵にかきたい」という願いを話しました。それを聞いた先生が「もう一回行ってみる？」と投げかけ、今度は紙をもって同じ場所に出かけました。意欲にあふれた姿でした。



幼稚園
教師
から

学校たんけんからのトウモロコシの皮むき（7月）



つながる学習
への意欲
協働的な学び
主体性

先生探検の後、「給食で自分たちにできることはないかな？」と、子どもたちが栄養士に聞いたところ、全校分のとうもろこしの皮むきのお手伝いをお願いされました。「楽しいけれど、大変だね。調理員さんってすごいなあ」と調理員さんへの思いが膨らんでいきました。学校全体で子どもの思いを受け止める学びの環境を作っていることが、学習への意欲や主体的な姿につながっています。

全校分の皮むきは3人でやっているの聞き、大変さを実感した子どもたち。調理員さんががんばって作ってくれてるから、私たちもがんばって食べよう！と給食の残量が減っていった。「調理員さん喜んでくれるかな」と、空になった食缶を見せにいった。



「ふりかえりカードは調理員さんの近くで書きたい」と言って、給食室の前にたくさん子どもたちが集まり、カードを書いていた。とうもろこしをきっかけに、調理員さんたちの存在と自分の生活との関わりについて考え、行動する学びの姿がそこにあった。

「やりたい！」と「子どもの声を聴く」から見えたもの

「子どもの姿」を通して考えていこう。これが、研究を進める園と小学校の合言葉でした。子どもがわくわくし、探究しながら遊びや学びを創り出す姿をともに見て、「子どもってすごい！」という思いを同じにしました。「子どもは有能な学び手である」という子ども観で保育や授業を見つめていくと、この姿をつないでいくことこそが、架け橋期の子どもたちの豊かな学びを創るのだと強く感じます。子どもの声を聴き、「やってみたい！」という思いがかなえられる保育や授業はその実現に向かうものです。そして、子どもが声を出せる、やってみたい！という思いがもてるのは、園でも学校でも、安心して自己発揮できることがベースとなります。架け橋期の学びの環境を園と学校が協働して創り出すことで子どもの学びは豊かに広がり、将来にわたる学びに向かう力を育てていきます。

架け橋カリキュラムの第一歩

幼稚園と小学校で、子どもの「わくわく」はどこから生まれてくるかを一緒に考えてみた。

園と小学校の職員が共通の視点をもつ

★子どもの「やりたい！」がかなえられることから

思いや願いを大切にすることで、学び手である子どもが、安心して自己発揮し、主体的で協働的で、探究的な学びそのものを面白がってほしいと考えました。それが、学びに向かう力を伸ばすことにつながってほしいと願いました。

★大人が子どもの声を聴くことから

思いや願いを大切にするために、まず園と小学校と一緒に、子どもの声を聴くことや、その声を受け止め、保育や授業に生かしていくことを意識することにしました。

※下線部について、次ページから具体的に説明します。

コラム

スタートカリキュラム保護者アンケートを行い「カリマネ」に生かす (R4.7月実施アンケートから)

- ◆入学前まで不安だった。
はい 保護者69% 児童64%
- ◆現在お子さんは安心して居るか。
安心して居る 100%
- ◆自由記述より
 - ・入学までは、親子で学校生活に慣れるまで不安があったが、スタートカリキュラムがあったことを嬉しく思う。子どもが安心して居り、学校が楽しいと話している。
 - ・学校や学習に興味や関心をもち、不安なく取り組んでいる。スタートカリでの安心感が大きかった。

「入学式の工夫を取り入れてみました」近隣小学校の校長先生の談話

区の園長校長会で、本郷台小では子どもたちがわくわくするように、入学式を工夫していると聞いて、さっそく取り組んでみました。入学式では、学校キャラクター「西桜丸」が登場！子どもたちのわくわくした顔が印象的でした。次の日から、1年生全員が、楽しそうに登校しました。その後も楽しそうに活動が続いていきました。

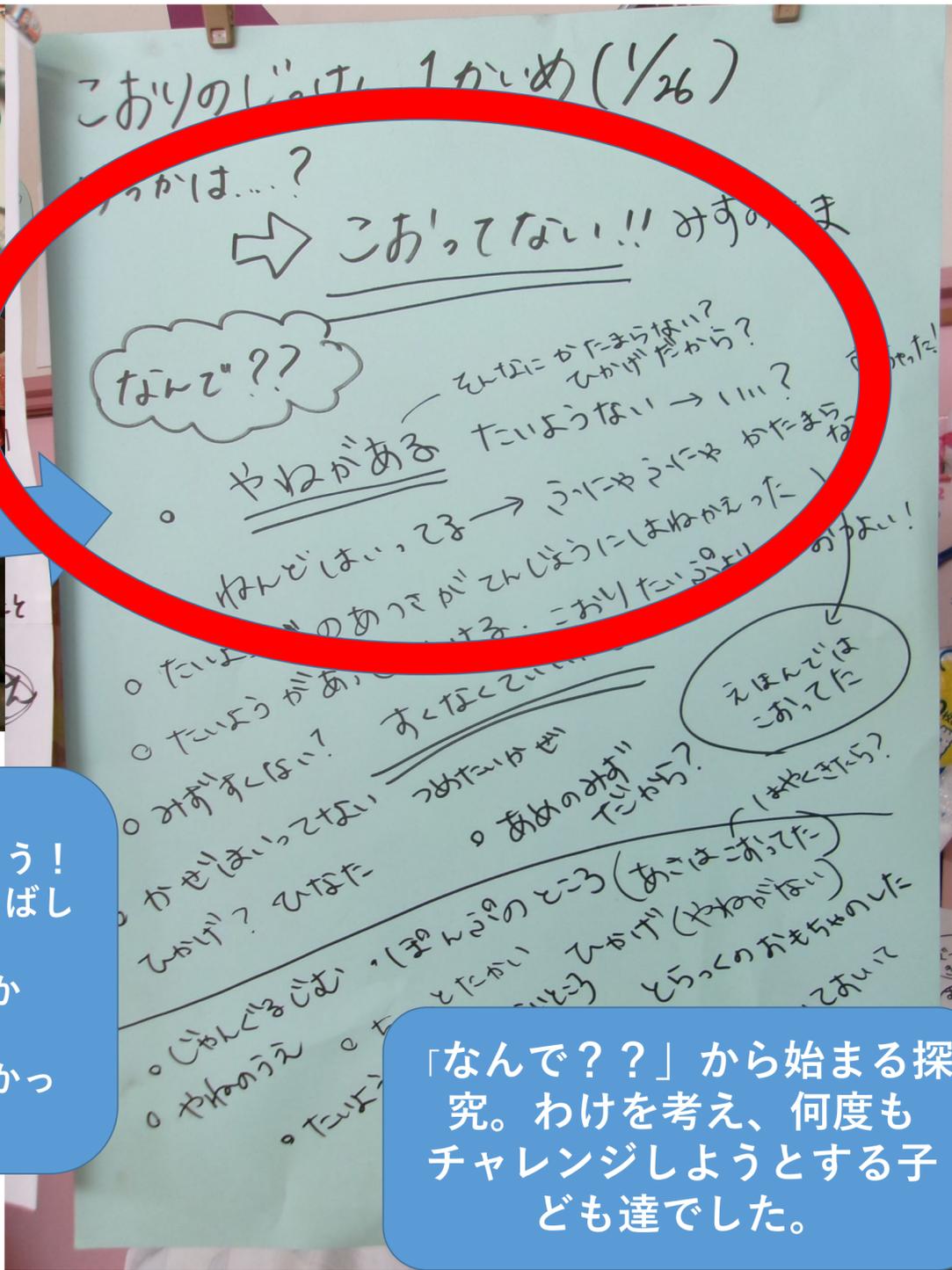


「やってみたい！」思いを大切に進めている
最近の活動より（年長「こおりをつくってみたい！」「葉っぱや実でそめものをしてみたい！」）



自分たちで氷
をつくって
みよう！

すみれ
こおりの
じっけんちゅう



こおりのじっけん 1かいめ (1/26)
...か...?
→ こおってない!! みず...
なんで??
やねがある
なんでは...? → ...か...? → ...か...?
...か...? → ...か...? → ...か...?



(園長先生)
プランターに
しもばしらがで
きてたよ。

(子ども達)
すごい！みにいこう！
あれ・・・しもばし
らがない！？
とけちゃったか
も・・・！
ごんねん！みたかつ
た！

「なんで??」から始まる探
究。わけを考え、何度も
チャレンジしようとする子
ども達でした。



(子ども達) はっぱからいろがでる！
いろみず つくりたい！
そめものしたい！
ほんで しらべよう！

「やってみたい！」思いを大切に進めている
最近の活動より（年中：「タネとの出会いから」）

先生からタネをもらったことをきっかけに野菜への興味が広がりました。話し合いをする中で今度はクラスで育ててみたい野菜を決めました！



先生にタネをもらい植えてみることに！
他にはどんな野菜があるかな？ みんなで話し合い
育てたい野菜を決め地域のスーパーでお買い物！
園外での約束事を確認して無事に苗とタネを
買うことができました。

日に日に変化する野菜に驚き、様々な発見や気づきが見られました。
当番制などではなく、自分たちで自主的に世話をしていました。
そういった中で、育てている野菜への愛着を深めていく姿が見られました。

形や大きさ、色の違いなどを面白がっていました！

野菜栽培をきっかけに
お花にも興味が広がり
植えてみることに！



虫食いされているお芋を発見！
掘った時に出てくる虫の量の違いや
「プランターによって違うかも！」
「土が違うから？」と比較をして考える姿も★



なにをつくるかから自分たちで考える！
マッシャーや包丁などの道具に触れたり、
秤を使用した際には重さや数字への関心の
広がりが見られました！

苦手だった野菜も育ててみたことで
食べてみるきっかけに！
実際に食べられるようになった姿も！

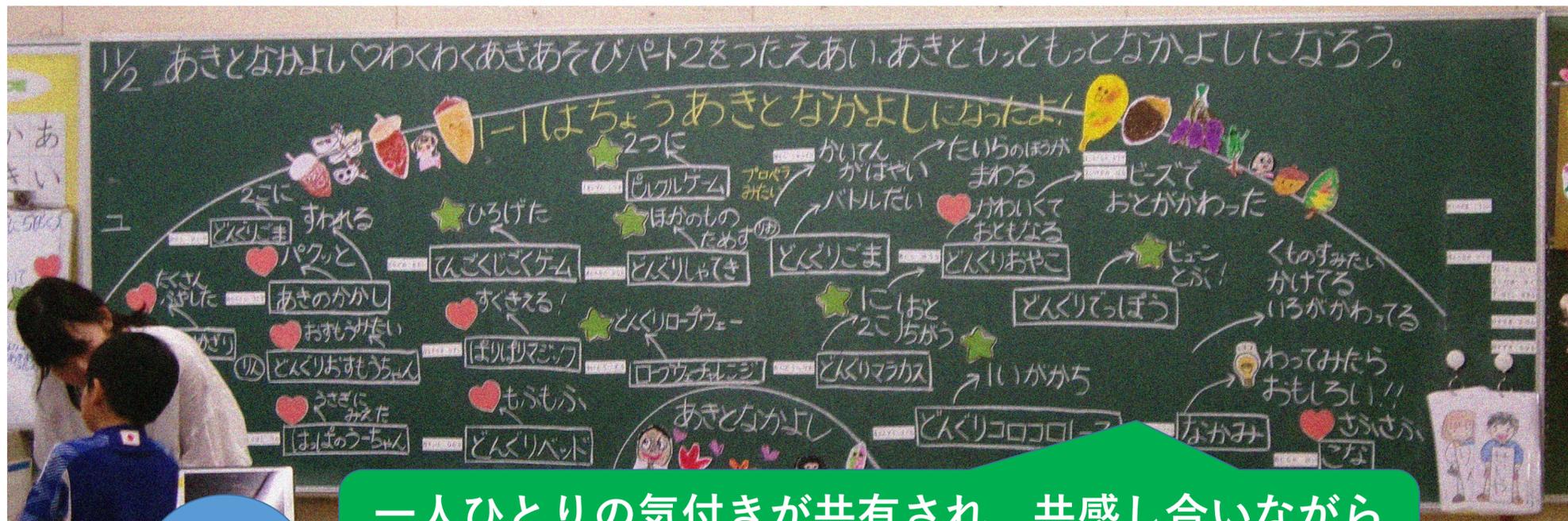
対話を深め、自分たちで決定・選択の経験を重ねる経験が
年中にも広がっています。
そういった中でより多くの気づきや学びがありました！
経験の積み重ねを大事にして架け橋期へと繋げていきたいです。

「やってみたい！」思いを大切に進める活動環境が引き出す主体的な学びの実践（学校「きせつとなかよし」）

③一人ひとりの「やりたい」がかなえられる保育と授業の実践

- 子どもの興味・関心を引き出す環境 やりたい！が継続できる環境
- 見通しをもって自分たちの活動を創り出せるような環境

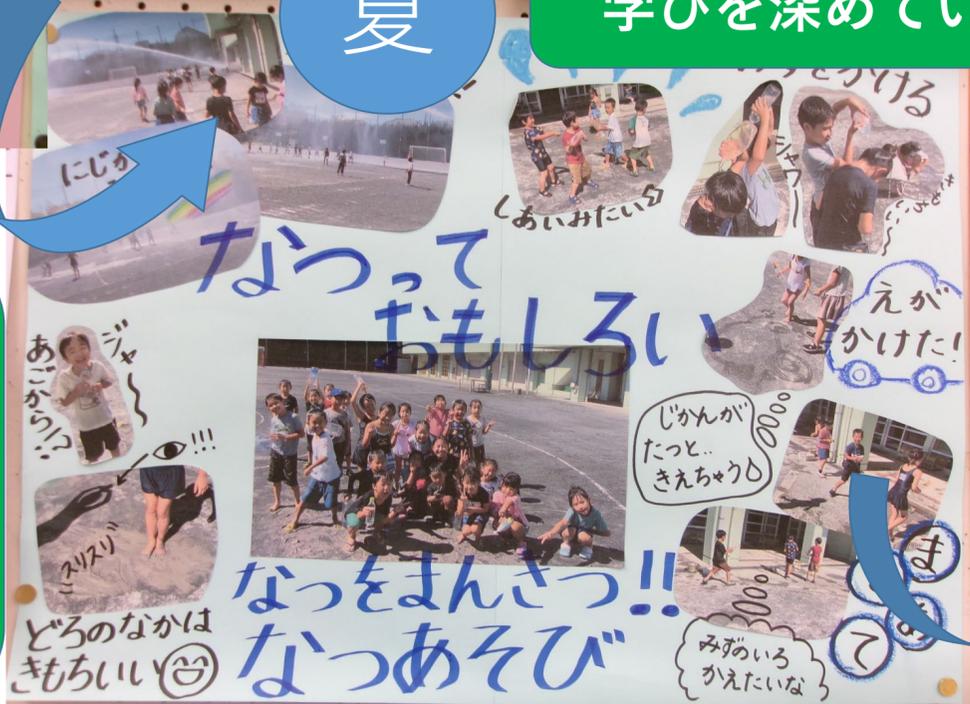
春



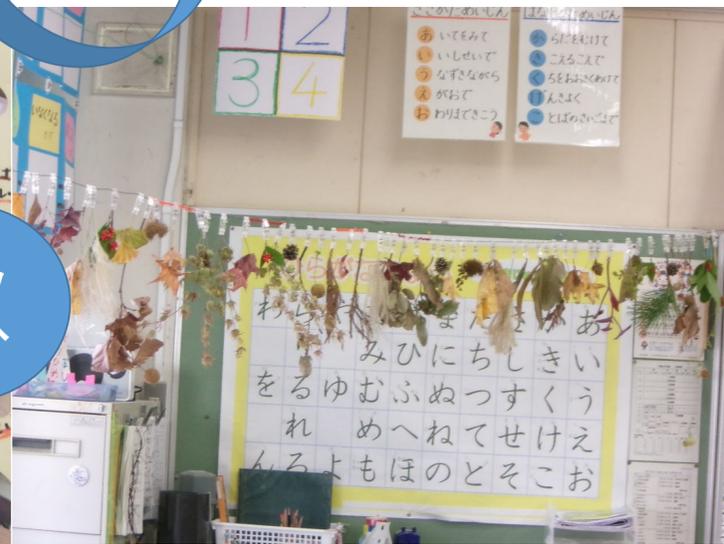
冬

夏

一人ひとりの気づきが共有され、共感し合いながら学びを深めていく板書→学び合いが作る深い学び

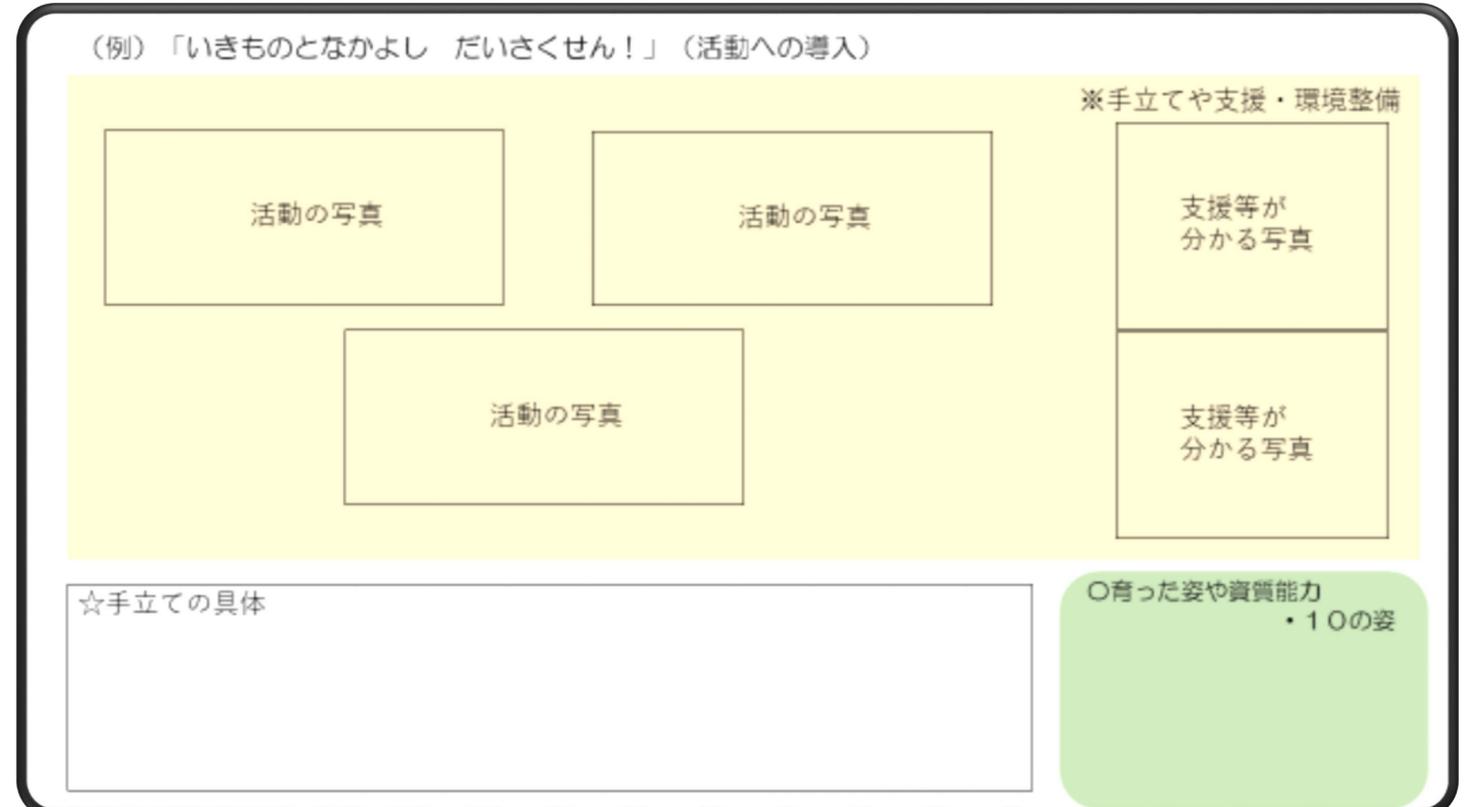
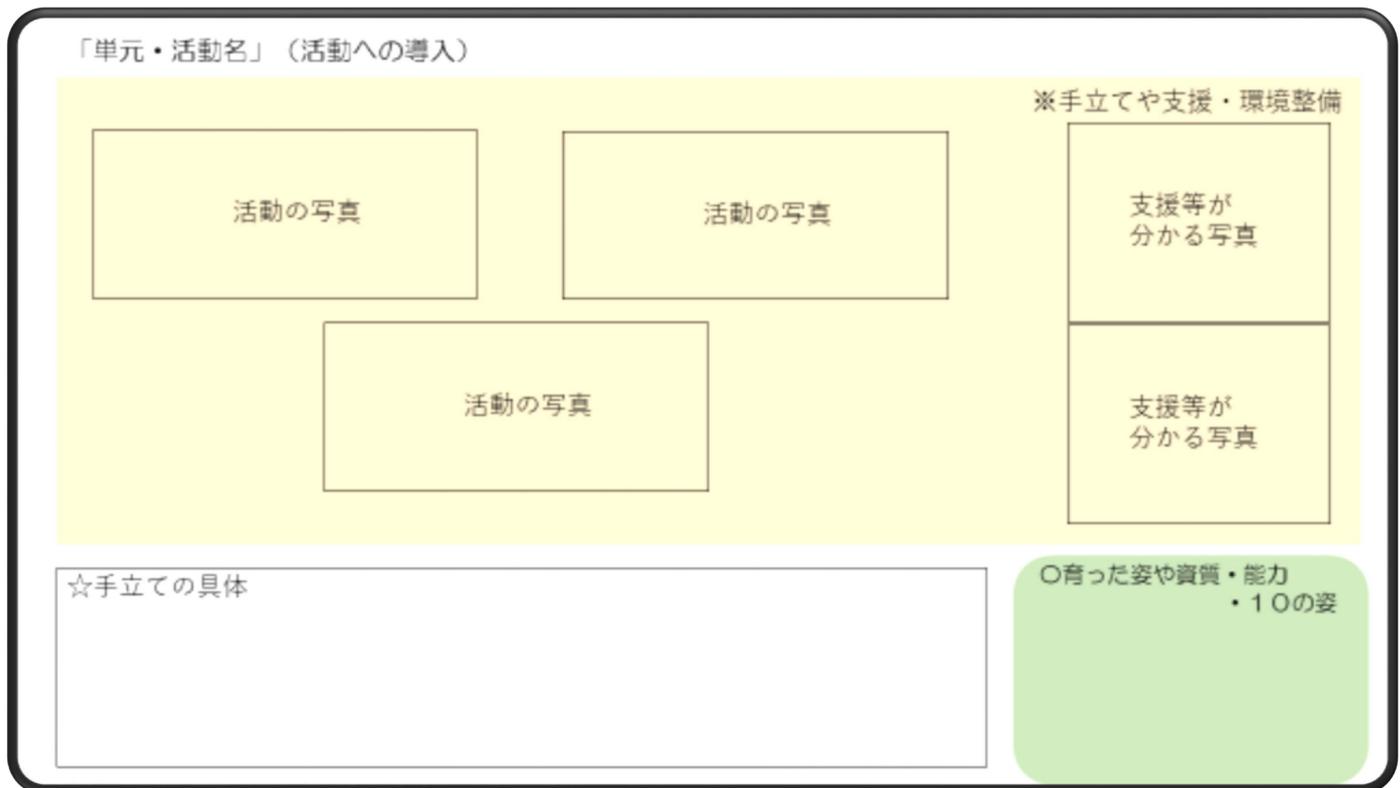


秋



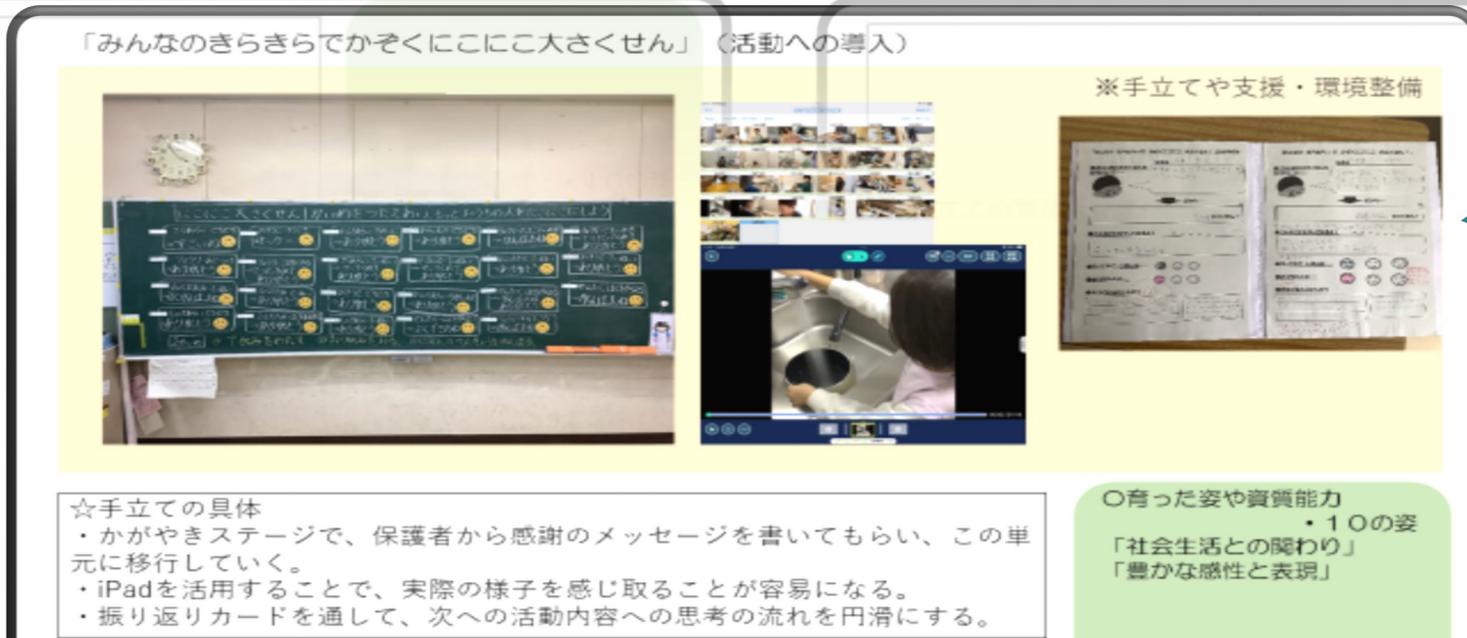
学びの足跡を掲示として残す。可視化することで子ども達はそこから次の活動を創っていきます。

⑤ 足跡カリキュラム・ドキュメンテーション 接続期カリキュラム バージョンアップ (昨年度からの継続) (現在進行中)



持続可能なカリキュラムとして実践が継続していけるように作成

- ★「見える化」で継続
- ★「見える化」で職員全体で共通理解



活動を立ち上げたり、展開したりしていくときに、「これがわかればやりやすい、分かり易い、実践できそう」と思える作りにはしてみました。

今年度だけでは網羅できないので、これからも少しずつ作成し、持続可能なカリキュラムとして園と学校で作成し、活用していきます。

単元名「みんなの きらきら☆で かぞくにここにこ 大きくせん！」

<p>単元 目標</p>	<p>家族をにここにこにしたいという願いの実現に向けて、自分のできることを実践する活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考え、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。</p>			
<p>活動名 活動の様子 (写真)</p>	<p>導入 かがやきステージを見に来た、お家の人がにここにこ。家で、にここにことなる時。</p>	<p>活動前半 ・みんなの きらきら☆で かぞくにここにこ大作戦の計画を立てる。パート1 ・みんなの きらきら☆で かぞくにここにこ大作戦を伝え合おう。パート1</p>	<p>活動後半 ・冬休み中も、かぞくにここにこ大きくせんをしよう！ ・かぞくにここにこ大作戦の計画を立てる。パート3 ・かぞくにここにこ大作戦を伝え合おう。パート3</p>	<p>まとめ ・みんなの きらきら☆で かぞくにここにこ大作戦のふりかえり。</p>
<p>活動の 具体 教師の ねらい 合科 関連</p>	<p>●家族にできることを考える ・遠足ではお弁当を作ってもらって嬉しかったな。 ・かがやきステージでママが笑顔だった。 ・休みの日に家族でおでかけしたよ。 ・身近な家庭での楽しみ、家庭における団らん、楽しい生活を支えてくれている家族の温かさを感じようとする。 ・道徳「みんな だれかに」内容項目【感謝】</p>	<p>●大きくせんを考える。 ・いつもお母さんがしているから、風呂洗いを手伝ってみる！ ・帰りがみんな遅いから、晩ご飯を作るのを手伝ってみる！ ・「風呂洗い大作戦」で、家族がにここにこになったよ！ ・家庭における自分の生活を振り返り、家庭での喜びや気持ちよい生活を振り返り、家庭での喜びや気持ちよい生活、家族のためにできることをしようとする。</p>	<p>●3回目の大きくせんを考える。 ・自分の事をする事で、家族に、にここにこになってもらえることが分かった！ ・手伝いだけではなく、自分の成長も家族はにここにこになってくれたことが分かった。 ・家庭での生活は互いに支え合うことで成り立っていることに気付いている。</p>	<p>●今までのまとめをおこなう。 ・自分のために、色々してくれているのだと分かった。 ・お家の人が、たくさんにここにこに、なってくれてよかったな。 ・お家の人が、家の仕事を任せられるようになったよ。 ・規則正しく健康に気を付けて生活することが、家族の願いにつながることに気付いている。</p>
<p>育った 力・1 0の姿</p>	<p>・家庭での楽しみや嬉しい思い出を伝えあい、家庭生活を思い出したり、家族の思いを想像したりしている。(思)</p>	<p>・家庭における自分の生活を振り返り、家庭での喜びや気持ちよい生活を振り返り、家庭での喜びや気持ちよい生活、家族のためにできることをしようとする。(学)</p>	<p>・家庭での生活は互いに支え合うことで成り立っていることに気付いている。(知) 「豊かな感性と表現」</p>	<p>・家庭生活について、自ら進んで関心をもち、これからも積極的に自分にできることを自分で行おうとしている。(学)</p>

成果と課題

【成果 その1】

◆子どもの「やってみたい」気持ちを大切に育て保育や授業づくりを行うことで、子どもの意欲が高まり、実現に向かう本気の思いが主体的な活動を創っていった。年長児から1年生の「架け橋期」は、学びに向かう力が大きく伸びる時期であることを実感した。「やってみたい」という意欲をつないでいくことを保育・授業づくりの共通の視点として研究をしてきたが、架け橋期にあたる年長から1年生の2年間は、幼児期の経験や学びの積み重ねの上に小学校での学びが形成されることによって、学びの幅が広がったり、気付きの深さが生まれたり、探究しながら協同的に問題解決する行動力（学び方）が積み重なって形成されていくことを子どもの姿から実感することができた。

◆園でのサークルタイムでは、園児が話し合いの良さを感じ、協同的に活動を創り出す力を形成していた。その力を小学校でもつなぐことで、より探究的に、より協同的に学びを形成していくことができると実践を通して感じている。また、気付いたことを表現できるこの時間は、共感を生んだり多様な考え方を知ったり気付きの視点の幅を広げたりし、小学校における資質・能力の育成の素地ともなっており、架け橋期でこうした学びの姿をつなぐことは重要であると実感した。柔軟な頭脳と心をもつこの時期、学びの芽を自覚的で主体的な学びへといざなうことができるように、架け橋期の保育や授業づくりは、園・学校双方で協働しながら作っていくことが重要であることを双方の職員が実感できた。

◆園でも学校でも、一人ひとりの意欲と安心して自己発揮できる環境を作る重要性は同じであった。そうした環境は思考力を働かせたり、安心して自己決定できる力を生み出したりしていた。また表現する意欲も生み出すことに繋がっており、その表現から、友達を感じ方や考え方と自分のそれとを比較したり、共通点を見つけたり、さらに広い概念でとらえた知識につながることも多いと感じることができた。自覚的な学びを促すことができる環境としても大きな意味をもっていると感じることができた。

成果と課題

【成果 その2】

- ◆子どもが学びの主体者となるような学びを形成していくには、園と学校双方の職員が互いに主体性をもち関わっていく姿勢が大切であることを実感することができた。
- ◆子ども観・指導観・保育観を共有し、実践してきた。園と学校で観をともにすることで、自然に、この時期の子ども達の学びと育ちをつなぐ保育・授業づくりを進めていくことができることが分かった。
- ◆「やってみたい」意欲を大切にした保育を、年中に広げることができた。
- ◆若い小学校教諭が園で園児と一緒に過ごし、実際の子どもの活動を経験する異校種交流は、子ども観を育む大きな力となった。
- ◆「子どもの姿を通して語る」研修は有意義であった。具体的な子どもの様子がわかり、観の共有にもつながった。

【課題】

- ◆持続可能にしていくための手立てとして架け橋期カリキュラムを園と学校それぞれで作成中である。作った後は互いに見合い、つながりを意識しながらそれぞれの保育や授業づくりに生かしていきたい。今年度だけでは様々が授業が網羅できないため、次年度以降にもち越し、作成を続けていく。保育はもちろん、生活科や他教科でのきっかけなど、子どもによって変わるため、そうした子どもの多様な姿もカリキュラムの中に落とし込んでいきたい。
- ◆異校種交流、授業や保育を見合うことは、双方の人材育成にとって有意義な事である。次年度も継続したい。互いに話せる研修環境をさらにつくっていきたい。
- ◆3年間の取組と子どもの姿を様々なところで発信できるように今後も考え、取り組んでいく必要がある。